

病害虫情報(第4号)7月予報

平成29年6月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、抑制トマト、イチゴ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 14

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成29年6月14日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病(葉いもち)	やや少	△	(予)オリゼメート粒剤[初発10日前～初発時,14日,2回]3～4kg/10a (予・治)オリブライト1キロ粒剤[出穂10日前まで,45日,1回]1kg/10a (予・治)コラトップ粒剤5[初発10日前～初発時,2回]3～4kg/10a 等 ◆発生を認めたら直ちに防除。山間谷戸田等常発地では発生に注意。 ◆耐性菌の発生を防ぐために、育苗箱施薬剤で嵐プリンス箱粒剤6を使用した水田では、オリブライト1キロ粒剤を使用しない。
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	並 (やや多)	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a 等 ◆ヒメビウンカは、縞葉枯病を媒介。
セジロウンカ	並	△	◆5月上中旬植えの水田では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
ツマグロヨコバイ	並	○	◆5月下旬以降植えの水田で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメビウンカの今後の発生状況に十分注意する。 ◆イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を平成29年5月1日に発表。
イネツトムシ	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a パダンSG水溶剤 [21日,6回] 1,500倍 スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ◆詳細は「防除情報(病害虫情報 号外 第4号)」を参照。
斑点米カメムシ類	—	—	◆斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ◆水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ❖ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ❖ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 等 ❖ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。
ミカンハダニ	並	△	マイトコーネフロアブル [7日,1回] 1,000~1,500倍 等 ❖ ハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。
ミカンサビダニ	-	△	ダニカット乳剤20 みかん:[14日,1回] 1,000~1,500倍 みかんを除くかんきつ:[60日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
→単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
→その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【ナシ】

生育: やや遅(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予・治) ベルコートフロアブル [14日, 5回] 1,500倍 (予・治) ストロビードライフロアブル [前日, 3回] 3,000倍 等
ナシヒメシンクイ (発生時期)	並 (並)	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 ロディー水和剤 [前日, 2回] カメムシ類: 1,000倍 シンクイムシ類: 1,000~1,500倍 等
カメムシ類	やや少	△	◆ ナシヒメシンクイの第3、4世代の幼虫を対象とする防除は、前世代の成虫発生ピーク直後が適期である。本年の防除適期は、7月中旬及び8月上~中旬と予想される(小田原、伊勢原)。 ◆ カメムシ類、ナシヒメシンクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	やや多	○	ダニゲッターフロアブル [前日, 1回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日, 1回] 1,000~1,500倍 等 ◆ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
→単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合: 1年2回
- ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→単剤あるいはQoI剤他との混用の場合: 1年2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [21日,3回] 2,500～5,000倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ランマンフロアブル[14日,3回] 1,000～2,000倍 (予) Zボルドー[-,-] 500～800倍 + クレフノン [-,-] 100倍 等等
黒とう病	やや少	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [21日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。
晩腐病	—	○	
チャノキイロ アザミウマ	並	○	ディアナWDG [前日,2回] 5,000～10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬で、
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予・治) ストロビードライフフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等等
カキノヘタムシガ	—	○	アタブロンSC [14日,3回] 4,000倍 ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000～4,000倍 等等 ❖ 平年の防除適期は、8月上旬である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
炭疽病	並	○	【二番茶摘採後】 (予・治) ストロビーフロアブル [10日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治) オンリーワンフロアブル [7日,2回] 炭疽病:2,000~3,000倍、新梢枯死症:2,000倍 等
輪斑病・ 新梢枯死症	やや少	○	
チャノホソガ	やや多	○	【二番茶摘採後】 エスマルクDF [発生初期,7日,-] チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ :1,000倍 スピノエースフロアブル[7日,2回] チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャノキイロアザミ ウマ:2,000~4,000倍 チャハマキ:4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [7日,1回] チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノキイロアザミウマ:5,000~10,000倍 等
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハマキ	多	○	
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや多	○	
チャノキイロ アザミウマ	並	○	
カンザワハダニ	多	○	【二番茶摘採後】 バロックフロアブル [14日,1回] 1,000~3,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
葉かび病	やや多	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000倍、うどんこ病:2,000~4,000倍								
うどんこ病	—	○	(予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 葉かび病:1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等								
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍								
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍								
タバココナジラミ	並	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍								
アザミウマ類	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等								
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。								
オオタバコガ	並	○	コテツフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,3回] 2,000倍 等								
			◆ 極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性がある のでよく確認し捕殺する。								

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000~1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000~4,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 ◆ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。等
うどんこ病	やや多	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000~3,000倍、 アザミウマ類:2,000倍
コナジラミ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍
オンシツ コナジラミ	並	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、コナジラミ類:2,000倍
タバココナジラミ	やや多	○	コテツフロアブル [前日,3回] ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍
アザミウマ類	並	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 等
ミナミキイロ アザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等
アザミウマ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバゾンフロアブル5 [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] ハダニ類:1,000~1,500倍、チャノホコリダニ:1,000倍
チャノホコリダニ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 (予・治) サプロール乳剤 [7日,5回] 800~1,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [3日,2回] 1,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:株元散布】 ダントツ粒剤 [3日,4回] ネギアザミウマ:3~6kg/10a
シロイチモジヨトウ	—	△	【生育期:散布】 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 ハチハチ乳剤 [3日,2回] 1,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 等 ❖ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
炭疽病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予) キノンドーフロアブル [育苗期, 3回] 500～800倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前まで, 3回] 1,000倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ❖ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。
うどんこ病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) トリフミン水和剤 [前日, 5回] 3,000～5,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 等 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。
ハダニ類	—	○	【育苗期】 コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日, 1回] 1,000～1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 等 ❖ カネマイトは葉害を生じる場合があるので注意する。 ❖ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールとの散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

▶ セイビアー、キノンドー、サンヨール、カリグリーン、トリフミン: 3日以上、 アントラコール、ゲッター: 7日以上、ベルクート: 10日以上
--

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

● QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。 ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ) →単剤の場合: 1作1回 →その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合: 1作2回 ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス) →単剤の場合: 1作1回 →その他の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
コナジラミ類 オンシツコナジラミ	やや多	○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株 【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 モベントフロアブル [育苗期後半,1回:灌注] アブラムシ類、コナジラミ類:1,000倍、25~50ml/株 アザミウマ類:1,000倍、50ml/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 400倍、25ml/株 【育苗期:散布】 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 等
タバココナジラミ	並	○	
アザミウマ類	やや多	○	【育苗期:散布】 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 等 ❖ モベントフロアブルは、軟弱徒長苗や極端にステージの若い苗(セル苗、プラグ苗)に灌注や株元灌注すると薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【スイカ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日,4回] 400～600倍 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500～2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。
炭疽病	並	○	◆ 降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となるため、大雨による冠水の影響に注意。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500～2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチフロアブル [前日,2回] 1,000倍
アブラムシ類	やや多	○	ハチハチフロアブル [前日,2回] アブラムシ類:1,000～2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
アザミウマ類	多	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 アグリメック [前日,3回] アザミウマ類:500～1,000倍
ハダニ類	やや多	○	アグリメック [前日,3回] 500～1,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバス)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【カボチャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日,3回] 疫病:1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロポーズ)の場合:1作2回

【メロン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] うどんこ病、つる枯病:1,000倍 (予・治) フォリオゴールド [3日,3回] うどんこ病、つる枯病:800倍、べと病:800~1,000倍
つる枯病	並	○	☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。
べと病	—	○	◆ つる枯病は、多湿条件下で発生しやすい。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 7月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部6月23日発表3か月予報)

〈天 気〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

*6月22日発表1か月予報による。

(2) 7月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (葉いもち)	少	やや少	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち感染好適日の出現は、6月23日現在、平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	並 (やや多)	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯での誘殺は見られず、発生は平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は平均5.2%であった。(＋) 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯での誘殺は見られず、発生は平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯での誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	並	1) 巡回調査では、発病が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	そうか病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	かいよう病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が過去7年の平均並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ナシヒメシンクイ (発生時期)	－ －	並 (並)	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)と伊勢原では平年並。(±) 2) 第2世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年より大井ではやや遅く、伊勢原ではやや早いと予測される。 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ニセナシサビダニ	中	やや多	1) 巡回調査では、モザイク症状を含めた発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、モザイク症状を含めた被害が見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	黒とう病	－	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	－	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	－	やや少	1) フェロモントラップへの誘殺数は、県予察ほ(根府川)と南足柄、伊勢原で少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(根府川)では平年よりやや少なく、山北では平年並、伊勢原では平年より多い。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)

※「発生量」……… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	小	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	チャノホソガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より多い。(＋) 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北は平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)は多い(＋)。 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	葉かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや多 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや多く(+)、タバココナジラミの発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	アザミウマ類	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	露地 キュウリ	べと病	少	並
うどんこ病		少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
アブラムシ類		少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
オンシツコナジラミ タバココナジラミ		少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年並(±)、タバココナジラミの発生が平年より多い(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ		少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
ナス		うどんこ病	少	並
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生が平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	やや少	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が過去7年の平均並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ネギアザミウマ	多	並	1) 巡回調査では、発生が過去7年の平均よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバコナジラミ	中 少	やや多 並	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや多く(＋)、タバコナジラミの発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	アザミウマ類	－	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや少ない。(－) 3) 巡回調査では、トマトでの被害は見られず発生が平年よりやや少なく(－)、ナスでの寄生は見られず発生が平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
三浦半島地区野菜				
病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少	並	1) 巡回調査では、スイカ、メロンでは発病は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
		少	並	
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少	並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、カボチャ、メロンでは発生が平年より少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
		中 少	並 並	
アブラムシ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
アザミウマ類	(スイカ)	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ハダニ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因